

第8回化学物質の内分泌かく乱作用に関する国際シンポジウム（沖縄）の概要

環境安全課

1. 開催日・会場

一般向けプログラム：

平成17年12月4日（日）

沖縄ハーバービューホテル

専門家向けプログラム：

平成17年12月5日（月）6日（火）

沖縄コンベンションセンター

2. 主催 環境省

後援 沖縄県、沖縄県教育委員会、那覇市、宜野湾市、本部町

3. テーマ

一般向けプログラム：

一般市民への分かりやすい情報提供

専門家向けプログラム：

国内外の専門家による最先端の研究・取組についての情報共有・意見交換

4. プログラムの概要

一般向けプログラム

12月4日（日）

(1) 開会式

(2) 一般向けパネルディスカッション

「今、自然界で何が起きているのか？～内分泌かく乱作用から生態系をどう守っていくか～」

コーディネーター：北野大（淑徳大学）

パネリスト：崎田裕子（ジャーナリスト・環境カウンセラー）

須之部友基（千葉県立中央博物館）

中山エミリ（タレント）

安間繁樹（農学博士）

<p>【参考】パネルディスカッションの様子は2006年4月1日（土）NHK教育テレビ「土曜フォーラム」（23:30~24:40）にて放映予定</p>

*：スタディビジット（一般向けプログラムと併行）：沖縄美ら海水族館（本部町）

専門家向けプログラム

12月5日(月)

セッション1 疫学研究における問題点

コーディネーター 遠山千春 (東京大学)

- ・山本精一郎 (国立がんセンター)
- ・David Bellinger (Harvard Medical School, USA)
- ・Brenda Eskenazi (University of California, USA)

セッション2 リスクコミュニケーション：現状と課題

コーディネーター 内山巖雄 (京都大学)

- ・吉川肇子 (慶應義塾大学)
- ・Peter Wiedemann (Federal Research Center Juelich, Germany)
- ・小出重幸 (読売新聞)

セッション3 群集レベルまたは生態系レベルでの人間影響評価

コーディネーター 花里孝幸 (信州大学)

- ・Charles Tyler (Exeter University, UK)
- ・安間繁樹 (農学博士)
- ・花里孝幸 (信州大学)

12月6日(火)

セッション4 内分泌かく乱作用解明の新たな切り口

コーディネーター 渡邊肇 (自然科学研究機構)

- ・徳田雅明 (香川大学)
- ・Sean Kennedy (National Wildlife Research Center, Canada)
- ・渡邊肇 (自然科学研究機構)

セッション5 内分泌かく乱作用に関する試験法開発

コーディネーター 井口泰泉 (自然科学研究機構)

- ・Charles Tyler (Exeter University, UK)
- ・Patric S. Amcoff (OECD VMG-NA secretariat)
- ・Anne Gourmelon (OECD VMG-eco secretariat)

セッション6 化学物質のリスク評価に関する最近の動向

コーディネーター 白石寛明(国立環境研究所)

・森下哲(環境省化学物質審査室長)

・Mike Roberts (Defra, UK)

・Karen Whitby (U.S. EPA, USA)

指定発言: 岩本公宏(日本化学工業協会環境安全委員会エンドクリンWG主査、三井化学)

映像・パネル展示等

環境省、沖縄県、日本化学工業協会、製品評価技術基盤機構

5. 参加者

12月4日(日): 200名

12月5日(月): 160名

12月6日(火): 170名

3日間合計 延べ530名

6. スライド等の取り扱い

シンポジウム当日使用した発表スライドは環境省ホームページに掲載。

http://www.env.go.jp/chemi/end/sympo2005/sympo8_mats.html